

農業大学校だより

vol.15

生かされている 命に感謝



農業大学校校長
木下 陽介

先進農家に泊り込みで農作業等を体験する現地体験実習から一年生が逞しくなっていて帰ってきました。受入農家の皆さん、調整等ご苦労いただいた農業改良普及センターの皆さん、本当にありがとうございました。

二年生は各々が学習課題を定め主体的に経営管理を行なうプロジェクト学習のまともに入り、十二月には発表会が行われます。

また、今年度新規事業として開催された就農率特別向上セミナー並びに農業経営セミナーでは、先進的な農業経営者等から直接の講義を受け、学生たちは大きな刺激を受けたようです。

農大での学習は、私たち人間を生かしてくれる動物、植物、水、空気、太陽、大地との対話であり、生かされている命に感謝し、人としての行き方の基本を身につけてほしいと思います。

今年は、高温少雨の夏ではありませんでしたが、農作物は順調に生育し、十一月には大学の最大行事である農大祭が盛大に行なわれます。学生たちが丹精込めて育てた農作物をぜひ味わってください。



軟式野球チーム優勝



卓球チーム準優勝

新潟県で四県親善スポーツ大会開催



バドミントンチーム優勝



バレーボールチーム準優勝

五種目のうち、 二種目で優勝、 二種目で準優勝



バスケットボールチーム

10月16日、新潟市において、新潟県、群馬県、埼玉県との親善スポーツ大会が開催されました。軟式野球とバドミントンでは優勝、バレーボールと卓球では準優勝となり、バスケットボールも三位の成績をおさめました。

オープン・キャンパス
開催

八月二日、三日、農大松代キャンパスでは、夏恒例のオープン・キャンパスが開催され、高校生や保護者等、一七八名の皆さんにご参加いただきました。一日目、二日目ともまず授業内容や就職状況等の概要を説明した後、農場、教室や学生寮の見学を行いました。オープンキャンパスでは毎年、未来の後輩たちのために学生生活の感想を含めてマンツーマンでアドバイスをを行うのですが、これがなかなか好評です。

「数多くの田んぼやハウスがあり、学習がしっかりとできると思った（高校生）」「作業をしている生徒さんたちの笑顔を見て息子もここで仲間に入れたらと思います（保護者）」など、好意的な感想を多数いただきました。



農家体験実習とインターンシップで
将来を見据える

9月4日から27日まで1年生は恒例の農家実習に参加してきました。1月ぶりにキャンパスに戻った学生は顔も手も真っ黒に日焼けし、一段とたくましくなって戻ってきました。卒業生に聞いても一番思い出に残る授業との感想が戻ってくる農大ならではの実践型教育の白眉です。

ですが、農大にはもうひとつ農家の皆さんにお世話になる授業があります。自分が将来やりたい仕事を見つけるため、5日ほど働きながら学ぶインターンシップです。インターンシップを通じて就職先を見つける学生もいます。今年は1年生から熱心に研修する学生も多く、卒業後にはこの農場で働きたいと目を輝かせていました。



十月二日から四日まで、二年生は関東各地の農産物流通販売の最前線を視察研修しました。群馬県の市民農園、東京都の大田市場、銀座周辺百貨店やアンテナショップ、茨城県ではJA直営直売所、農業法人経営直売所を見学、農産物を有利に販売するための工夫等を学習しました。



農産物マーケティング論・実習

教授登場

農産物マーケティング論・講義



古田 陸美 先生

「県外の友達に、長野県が一番の特産品をどうやって紹介する？将来自分が農業をするとして、皆で議論してみて」

机を向いて先生の講義に耳を傾ける。パソコンのエクセルで出された演習問題と格闘する。そんな普通にイメージされる授業とは古田先生の授業は少し違ってきます。教室をのぞいてみると、五、六人ずつの小グループにわかれた学生たちが先生から出された課題を巡って、活発に議論しては、出された意見を紙に書き込んで整理していくのです。いわゆる「ワークショップ」と呼ばれる手法です。

「マーケティングにはこれが正解だという答えがありません。地域資源をどうやって活かすか。自由なアイデアを出しあうことで相乗効果が産みだせることを体験してもらいたいです」

普段は、長野大学教授として、地域通貨「蚕都クラブまーゆ」や地場農産物を活かして人気のコラボ食堂の仕掛け人になってきた先生です。「パワーポイントで自分のアイデアを発表してください。それで採点をします」ユニークな授業にとまどいながら、学生たちは大いに刺激を受けていました。

最先端の農業経営を学ぶ



青山浩子先生



鈴木誠先生



澤浦彰治先生



向後武彦先生

将来、就農して農業で生計を立てていく。そのような学生たちの夢を実現するために、すでに成功している第一線の農業経営者や一流のジャーナリストの生の声を聞くのが一番です。そこで、今年には「就農率向上特別セミナー」及び「農業経営セミナー」として4回の講演会を開催しました。

第一回は株式会社ナチュラルアートの鈴木誠社長から「夢のある新時代の農業経営」、第二回は千葉県和郷園の向後武彦副代表から農業法人の取り組みについて、第三回は「強い農業をつくる」と題して農業ジャーナリスト青山浩子先生、そして、四回目が群馬県のグリーンリーフ(株)の澤浦彰治社長に「わが社の経営理念と人づくり」と題してそれぞれ講演をいただきました。

実践をふまえた具体的な話だけに普段の授業以上に学生からは活発な質問が続き、「百姓というのはとても素晴らしいことだと再認識できた。家で農業をやっていく将来がワクワクと楽しくなった」「今後の農業には女性が求められているんだと実感した」といった前向きな感想が数多く聞かれました。



「こんなブドウは知らなかった。美味しい」「美味しいけどこの値段じゃね」様々な消費者の声を学生たちは熱心に聞き分析していました。

プロジェクト実習でアンケート調査

プロジェクト実習は、学生自らが課題を見つけ、仮説をたて、栽培試験を行なう農大の実践型学習の柱です。作物、畜産、野菜、花き、果樹とコース毎に行いますが、今年は生産だけではなく、消費者意向の調査も充実させています。例えば、果樹コースでは自ら栽培したシャインマスカットの感想を聞くのです。



学生たちは、自分たちで育てた作物が消費者の手元に届くまでを一貫して体験し納得していました。

分たちで育てた作物が消費者の手元に届くまでを一貫して体験し納得していました。

今日も完売。

リンゴにもお客さんが群がります。

農産物マーケティング論販売実習

農産物マーケティング論の実習では、農大産の農産物を地域の皆様に直売する学習も行っています。鮮度が高い野菜はたちまち売れ切れ、ブドウやリンゴにもお客さんが群がります。今日も完売。



山に行ってきました

これはどこかのワンダーフォーゲル部？いいえ、農大生です。体育の授業の一貫として、菅平の根子岳（標高二〇七m）に上りました。当日は快晴で風もなく穏やかな登山日和でした。北アルプスや浅間山、八ヶ岳もよく見え、はるか彼方には富士山や日本海もかすかに見えました。



案山子コンクールで記念大賞



七月、長野市内松代町東条の児童養護施設「松代福祉寮」主催による「かかしコンクール」が開かれました。同寮の寮生や東条小の生徒、地元住民らとともに農業大の学校も参加しました。コンク

ルは今年で六回目。福祉寮創立六〇周年にあたりますが、見事記念大賞を射止めました。

平成25年度長野県農業大学校

「総合農学科」学生募集!!

- 人数：60人(うち、推薦入学者おおむね50%)
- 対象：高校卒等 ■修学年限：2年
- 専攻コース
作物・畜産・野菜・花き・果樹の中から入学後の授業や実習等を通じて専攻コースを選べます。
- 資格・特典
○在学中に次の資格・免許の取得のための学習等を行います。
毒物劇物取扱者、大型特殊免許(農耕車)、車両系建設機械運転技能、フォークリフト運転技能、小型移動式クレーン運転技能、玉掛け技能、家畜人工授精師他
○卒業者は、人事院規則等に基づき、短大卒業と同等に扱われ、また専門士の称号が付与されます。
- 推薦入試(募集人員終了)
入学試験日 24年11月13日(火)
合格発表 24年11月26日(月)
- 一般入試
願書受付 24年12月10日(月)～12月25日(火)
入学試験日 25年1月15日(火)
合格発表 25年1月25日(金)
- 問い合わせ先
長野県農業大学校事務局 TEL 026-278-5211 (代)
担当：高野和夫

アンティーク農大



これが私たち農大です。といっても、実はこれは昔の写真。昭和18年の卒業生、飛澤善朝氏が提供された戦前の農大です。このように農大には長い歴史があるのですが、さて、農大は今年で発足から何年になるのでしょうか？
(答えは2Pのキャンパスライフの横の数字)

桜吹雪農大



農大といえば、桜が有名です。春にはキャンパス全体が桃色に染まり、桜吹雪の中で授業を受けることとなります。さて、農大にはソメイヨシノ等の桜がいったい何本あるのでしょうか？
(答えは3Pのキャンパスライフの横の数字)